

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170300515		
法人名	社会福祉法人　みのり福祉会		
事業所名	インターグループホーム　（天女・羽衣）		
所在地	鳥取県倉吉市福守町407-12		
自己評価作成日	令和6年12月3日	評価結果市町村受理日	令和7年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取県鳥市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和6年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉の里内にあり、隣接する母子寮や法人内保育園との交流を実施しています。地域との繋がりを大切に、多くの地域の方のご協力をいただきながら、ご利用者様の豊かな生活を目指しています。ご利用者様お一人お一人の持てる力や意思を尊重した支援を心がけ、外出や毎日の活動を提供しています。今年度は引き続き、藤棚やバラ園の整備を行い、ご利用者様に美しい庭園を楽しんでいただけるように努めています。畑で野菜を収穫し、食す楽しみを支援をしています。個別支援で楽しみ事を支援し、生活の質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本施設は、年間目標を1階、2階の各ユニット単位で個別に設定し、利用者全員が明るい笑顔で楽しく元気に過ごせるよう努力されている。また、隣接する母子寮(ブルーインター)やその他関連の事業所との交流や協調について、意欲的に取り組んでいる様子が伺えた。尚、利用者が楽しみを持って日々過ごせる方策の一つとして、施設内にある畑で一年を通し苗植えから共に行う園芸療法が行われていた。また、藤棚やバラ園を整備されており、利用者が美しい庭園を楽しむことによるストレスの軽減やリラクゼーション効果の創出などに寄与されている。加えて、利用者の個別の外出支援として、職員が利用者とともにグループ内の交流施設の「みのりカフェ」に参加され、楽しみを寄与されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の掲示。各フロアごとに理念を基にした1年間の目標を見えやすく掲示し、日々意識して実践に繋げている。	法人全体の運営理念を玄関に掲示され、理念を元に研修を実施されている。各ユニットごとに1年間の目標を作成し、共用空間に掲示され、職員は理念の意義を踏まえ日々意識しながら実践に繋がられている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主体の福祉の里夏祭りや秋の文化祭で交流を持っている。また、今年度よりみのりカフェを開催し、地域の方に参加していたっている。	自治会に加入し、地区文化祭や清掃活動に参加されている。法人全体での年2～3回清掃活動や法人施設「ふれあい会館」へ地域住民を招きみのりカフェを開催される他、倉吉市主催「にっこりの会」へ参加される等、地域住民との交流を通して、認知症理解へ繋がられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の認知症理解の為の絵本教室に参加している。認知症について実体験を用いて話し、子どもたちの認知症理解へつなげている。認知症の紙芝居やクイズなどを行い、地域交流カフェを開催している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、施設内での活動報告やヒヤリハット等の報告を行っている。委員会の活動報告や困難事例についての相談を行い、開かれた施設運営に繋がっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者の状況、活動報告をし、ヒヤリハット、誤薬について、意見やアドバイスをもらわれている。又、参加委員からの看取りについての質問に対して説明し、開かれた施設運営を目指されている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	にっこりの会や本人ミーティングの参加協力を行い、市との関係を築くよう心掛けています。	市町村担当者とは、運営推進会議での話し合いの他、生活保護支援について相談をされるなど、日頃から連絡を取り合われている。市主催の「にっこりの会」「本人ミーティング」への参加を支援され、情報交換しながら協力関係を築かれている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3事業所で委員会を開催し、毎月身体拘束チェックリストを全職員が提出している。事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。研修を定期的に行い、日頃のケアを振り返り、身体拘束をしないという意識を高めている。	毎月提出される身体拘束チェックリストに基づき、3ヶ月に1回、同法人の3事業所（インターGH・みのりGH・小規模多機能事業所やしろ）の「身体拘束廃止・虐待防止委員会」の話し合いで研修計画を立てられ、研修を実施されている。また、法人全体の研修、及び外部研修も受けられ、身体拘束をしないケアに取り組まれている。
7		○虐待の防止の徹底	3事業所で委員会を開催し、毎月虐待防止	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チェックリストを全職員が提出している。研修を動画や事例などを用いて実施している。言葉使いについては目標にも掲げ、意識をしながらその都度話し合い、意識向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の年間勉強会の中に毎年組み込んでいる。権利擁護についてのマニュアルを作成しておりいつでも閲覧できるようになっている。担当職員が自身で調べ、まとめた資料を用いて勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書と契約書をお渡しして必ず説明を行っている。不安や疑問が無いかなどを尋ね、納得していただいてから契約を結んでいる。遠方の方に関しては、郵送し、電話連絡をこまめに行い、納得していただけるよう心掛けている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが利用はない。カンファレンスや面会等に意見を伺っている。また、ご家族様を対象とした満足度調査を毎年実施しており、いただいた意見を運営に反映し、改善に努めている。	玄関にご意見箱が設置されている。年1回家族アンケートを実施され、そこでの意見や要望を改善に繋げられている。アンケート結果は施設内に掲示される他、各利用者家族へ配布されている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務時間内や職員会で意見交換している。話しやすい環境、関係性を築くために一人一人と意識してコミュニケーションをとり、反映できるように努めている。言葉にしにくい方などは手紙でのやりとりを行っている。	管理者は、フロアー会議や職員会議にて話を聞かれる他、日頃からコミュニケーションをとり話しやすい環境作りに務められ、毎月一人ひとりの職員に手紙で気付きや感謝の言葉を伝えられている。その事で職員の励みとなり業務改善へ繋がられている。尚、施設長の面談が年1回行われている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善により有資格者の給与水準が向上した。夜勤賃金の増額もあり、夜勤業務に対し、やりがいを持てるようになった。介護や育児に対して、必要時は調整を行い、職員個々が働きやすい環境を整えている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の内部研修は管理者・中堅職員・初任者等で開催されるので、現状に即した研修内容となっている。介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得に向けての勤務調整等を行い、職員を育成し、資質向上に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修に参加している他、認知症の絵本教室では、多数の同業者が参加しており、意見交換の場となっている。リモート研修に参加し、同業者とディスカッションすることがあり、交流を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行いご本人と話をさせてもらっている。入所されてからも、以前の施設へ相談させてもらうなどして、ご本人様に安心していただけるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはホーム見学を通して、施設の雰囲気を感じていただいている。どんなことに困っておられるのか、要望等を丁寧に傾聴している。また、入所までの苦労に共感し、労いの言葉掛けを忘れないよう心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、申し込み時に必要であれば、他のサービスの提案ができるように他施設のパンフレットや料金表等を用意し、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までできていたことをアセスメントし、家事や炊作活動の提供を行っている。役割を持っていただくことで、意欲的に生活を送っていただけるように支援を行っている。感謝を伝えることで施設にとって必要な存在であることを認識してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来所された時や、カンファレンス時には心身の状態を近況報告している。状態に変化があった時はご家族の希望をお聞きし共に支援できるように努めている。通院支援などでご家族様にご協力いただいている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、今までのかかりつけ病院を受診したり、ご本人様と交流があった方に月1回は訪問してもらい、一緒に楽器の演奏をしたりと変わらない関係の継続を支援している。	本人のこれまでの暮らし方の継続を図り、かかりつけ医の受診や、傾聴ボランティア、知人や近所の方の来訪を支援されている。又、里帰りや墓参り、親族のお祝い事等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努められている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルにも配慮し、孤立しないように支援している。お互いが関わり合いが持てるよう同じ場所での家事活動や作品づくりなどの活動を提供し、共に支えあえる関係作りに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院後も連絡・相談等の支援を行っている。退所後行き場所に困られないように柔軟に対応している。退所後や逝去後に封書でのやりとりも行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から本人の希望が聞き取れるよう努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草などで思いを量り、本人本位の支援に努めている。また、月1回のフロア会議で話し合い、ご本人様の思いや変化の情報共有を行っている。	日常の会話の中で本人の意向を聞かれている。帰宅願望や、食べたい物、買い物、また様々な希望等、出来るだけ要望に添えるよう努められている。又、フロア会議にて、利用者一人ひとりの思いを確認しながら、対応について全職員が方針を共有されている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取り時に本人、家族からの話を聞き、今までの生活状況を尊重し、できる限りサービスに反映させている。サービス評価表にわたしのことという欄があり、毎月の評価時に新しい情報や気づきを記載して把握できるよう努めている。会話からも引き出	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り等で一人ひとりの状態を把握し、情報共有している。気が付いたこと、変化があったことはケース記録に記載している。特記・引継ぎ事項の欄があり、全職員が把握できるように努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度のカンファレンスはご本人様、家族様と行っている。ご家族には来所または、電話にて要望をお聞きしている。担当者数名、ご本人様との話し合いを行い、介護計画に反映させている。	担当職員にて毎月ケアプランの監査および評価が行われている。半年に一度、カンファレンスにて本人・家族と今後のケアの課題について話し合い、現状に即した介護計画が作成されている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況や変化等を記録に残し、朝、夕の申し送りで職員の情報共有をしている。また、ケアプランに対して担当者が実行記録評価表を記入し、1か月単位で評価し、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、通院の支援など時間にとらわれずに、柔軟に対応できるよう心掛けている。ご本人様、ご家族様の希望で自宅への帰ったり、法事などの参加も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで長寿社会課、地域包括支援センターなどから情報提供していただいている。認知症家族の会の協力をいただき、ご本人様の支援を行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者1人ひとりのかかりつけ医を把握し、受診時は職員、またはご家族が同行している。何かあれば主治医に連絡するとともにご家族にも連絡し、適切な医療が受けられるよう支援している。ご家族様、ご本人様の希望により訪問診療への切り替えも行っている。	受診は、利用者および家族の希望を大切にされ、職員または家族が同行されている。契約時に、利用者、利用者家族の希望により訪問診療になった際は、診療結果は月1回のお便りにて伝えられている。又、変化のあった際は電話で連絡し、安心して適切な医療を受けられるよう支援されている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、24時間連携がとれるようになっている。週1回は必ず訪問があり、ご利用者様の体調管理が適切に行えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要物品を揃えたり、洗濯の支援を行っており、その都度、情報を提供してもらっている。早期の退院となるよう、随時医療関係者や地域連携室との連絡を密にし、関係づくりに努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについてのマニュアルやご家族様へ対して説明文章、承諾書等を作成している。重度化へ向けて、体調に変化があった場合は、主治医と連携を持ちながら、ご家族様へこまめに連絡を行い、情報を共有している。看取りについてご家族様より相談を受けることも増えている。	契約時に、重度化や終末期について、利用者、利用者家族に説明し、承諾書類等を作成されている。又、重度化や体調の変化に応じ、主治医と連携し、事業所、利用者家族がチームで支援に取り組んでいる。終末期についてのマニュアルが作成され、研修を実施されている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の事故マニュアルを元に勉強会を行っている。急変時の連絡網や手順のマニュアルを掲示し、急変や事故発生時に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定での火災、水害、地震などを想定して、避難訓練を行っており、職員全員が参加できるようにしている。1年に一度は隣施設と共同の避難訓練を実施しており、非常時には協力体制が取れるようにしている。担架や備蓄品を蓄え、有事に備えている。	年2回、夜間想定での火災、水害、地震に対する避難訓練を実施されている。また、年1回隣接施設(ブルーインター)と共同の避難訓練を実施され、非常時に備え協力体制を築かれている。備蓄はある。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについてはフローア目標に入れている。声のトーンや言い方に気をつけるよう配慮している。接遇マニュアルを用いて、法人内研修に参加し、担当者から職員に周知している。事業所の勉強会でも接遇について再研修を行っている。	法人内の接遇委員会で、接遇マニュアルを用いての研修を受けられ、全職員は周知できている。1年間のフローア目標を1階、2階と揚げ、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう努められている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が行きたいところや、食べたいものなど話しやすい雰囲気作りをし、自己決定ができるように心がけている。うまく表現できない方は表情や行動を読み取り、支援している。選択肢を提示し、決定しやすいよう工夫を行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を見たり、聞いてみたりしながらその方のペースに合わせている。ご本人の意向を優先し、声かけのタイミングや職員を交代してみたりと、工夫して支援を行っている。時間をずらして食事を提供するなど柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に温かいおしほりの提供や衣類を選んでいただいたり、髭剃りを支援することで、いつまでもおしゃれに過ごしていただけるように心がけている。髪染めで若返りの支援を行っている。使い慣れた基礎化粧品を継続して使用していただいている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みをお聞きし、行事食を提供したり、お好きな弁当等を購入し、食事を楽しんでいただいている。食べられない物を把握し、個別のメニューで対応している。食事の下準備を一緒に行っている。	3事業所(インター・みのり・やしろ)合同で給食委員会を作り、1ヶ月毎交代で献立作成し、法人の栄養士が確認され食事バランスを考慮されている。又、食事の下準備を利用者と一緒に行われ、施設内の畑で採れたきゃべつ・にら・玉ねぎ等、季節の食材の収穫を楽しまれる等、食事が楽しみなものになるよう工夫されている。尚、個別に利用者の食べたい物を買出しに行く等の支援もされている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立を確認してもらい、食事のバランスを考慮している。水分摂取が難しい方はお好きな飲み物の提供を行い、水分量の確保に努めている。フローア会議にて、嚥下状態等をみながら、食事形態の検討を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行う際、ご自分でできない方はお手伝いしている。就寝時には、入れ歯洗浄剤を使用したり、口腔ウエットティッシュを使用することで、口腔内の清潔を保持している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを知り、早めの声かけ、案内でパットの使用を減らすよう心がけている。歩行困難な方もトイレでの排泄を支援し、自立排便を促している。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを全職員が把握し、早めの声かけで案内されている。また、歩行困難な利用者についても、トイレでの排尿、自立排便にむけた支援を行っている。尚、看護師が1週間に1度来所されている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食前にリハビリ・ラジオ体操を取り入れたり、食物繊維の多い食品や牛乳を摂ってもらうことで、便秘予防に取り組んでいる。腹部のマッサージで排泄を促す支援も行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後といつでも入浴支援している。夜間に入りたいとの要望があり、ほぼ毎日入浴していただけるよう支援している。気分が乗らない方があれば、職員を交代したり、日にちを変えることで無理のない支援を行っている。	日中の午前、午後と、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2～3回は入浴支援されている。また、入浴拒否の利用者については、無理のないように言葉がけや日にちを変えるなどの工夫をしながら支援されている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早めに休まれる方、遅くまでテレビを見られる方、職員と会話をしてみたい方など、様々なご利用者様がおられるため、好きな時間まで楽しんでいただき、好きな時間に自室で休んでいただいている。お昼寝の時間も設けている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬剤情報が綴っており、いつでも確認が可能となっている。処方内容が変わったときは、引き継ぎをノートに記録し確認、把握できるように努めている。薬について主治医や薬剤師に都度確認を行っている。勉強会でも薬についての研修を実施。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自宅で続けておられた畑での野菜づくりを継続できるよう、種苗店への買い物等を支援している。好きな食べ物の購入で楽しみごとの支援を実施している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の意向を確認しながら外出の支援を行っている。ご家族様と協力しながら畑の野菜の苗や消毒などを購入している。市役所、ご家族様と一緒に外出支援を行っている。	一人ひとりの希望を聞かれながら、ドライブ、花見、紅葉狩りなど年間行事予定に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努められている。また、利用者家族の協力のもと、施設内にある畑では、1年を通して野菜の苗植え、消毒、草取り、収穫の喜びなど楽しんでいた。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設預かりしている。本人の希望を確認しながら、買い物の支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵葉書のやりとりを支援している。本人より電話の依頼があるので、いつでも連絡できるよう支援している。ご家族から電話やテレビ電話の要望があり、その都度対応している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の温度・湿度計を確認しながら、換気や室温調節を行い、過ごしやすい空間づくりをしている。各居室に加湿器を設置し、居室の湿度にも配慮している。テレビのボリュームや会話などのトーンにも配慮し、不快感がないよう気を付けている。季節ごとの飾りつけで見た目の楽しさを配慮している。	共用空間は温度、湿度計を確認されながら、換気や室温調整が行われていた。また、季節ごとの飾りつけで外出の機会が減っても季節感を感じられるよう四季折々工夫し、居心地よく過ごされている様子が伺えた。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や習慣を考慮し、食事の席やソファでの居場所を工夫している。仲の良い方同士と一緒に過ごしやすいよう気を配っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、家庭で今まで使い慣れた家具や食器を持って来ていただき、自宅と近い雰囲気の中で安心して過ごしていただいている。自宅で使用されていたテレビやタンスなどを置かれご自分の空間を作られている。	全居室には温度、湿度計を設置し、居心地よく過ごせるよう環境を整えられていた。また、利用者の使い慣れた布団、タンス、TV、ファンシーケース等、利用者家族の協力を得ながら持ち込まれ、自宅に近い雰囲気の中で安心して過ごせるよう配慮されている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に手すりを設置するほか、各居室の表札やトイレ、風呂などを分かりやすく貼り紙で案内している。必要な用具は手配し、安全に努めている。危険箇所にはポスターを貼り、注意喚起している。	

-)です。]

Ⅱ
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容

五
次のステップに向けて期待したい内容